

ヘドロを食う虫ユスリカ

記録
16ミリ
カラー／23分
日・英語版

- 企画
日本学術振興会
- 監修
佐々 學
安野正之

スタッフ

- 原作
佐々 學
- 製作
村山英世
- 構成
村山英治
- 演出・撮影
小林一夫
- 音楽
山内 忠
- 解説
伊藤惣一

文部省選定 日本映画ペンクラブ推薦 第35回東京都教育映画コンクール金賞 第23回日本紹介映画コンクール特別賞

ユスリカの生態の研究は、まだ始まったばかりで詳しいことはわかっていない。映画は、この人知れず生きている小さな生物の働きから、自然環境の複雑な仕組みや自然の持つ浄化力を見ていく。



東京の真ん中を神田川という川が流れている。昔は水がきれいでも魚も水鳥もいた。それが、一時期は下水溝と化し悪臭を放つドブ川になっていた。これを改善するために下水道工事が進み、上流には汚水処理場もでき、水がいくぶんきれいになった。すると、予想外の公害騒ぎが起きた。夕方になると蚊に似た小さな虫が、大量に湧いたのである。それはユスリカであった。霞ヶ浦でも、同じようなユスリカの異常発生が年々起きている。ユスリカの幼虫は、人間の糞便や台所の汚水、農業排水が流れこんで、いわゆる富栄養化が進んだ水域の底のヘドロにおびただしく繁殖している。羽化して成虫になると、水面から空中に飛び立っていく。しかし意外なことに、ユスリカの幼虫が霞ヶ浦の湖底でヘドロの中の有機物を食べてくれていることがわかった。その幼虫の量は、推定年間1万トンを超える。湖の周辺からおびただしい量の有機物が流入しているにもかかわらず、ユスリカの大量発生によりこの湖水は辛くも腐敗を免れていると推定された。

ユスリカは昆虫の一種で、種類もいろいろある。汚水にすむ幼虫はみな赤く、清流にすむ幼虫は白いが、農業用水などが混じっている所のは青っぽい。汚染が進むにしたがって褐色から赤となるので、そこにすむユスリカの色と量によって水質が判定できる。いわゆる環境指標生物として貴重な存在になる。赤いユスリカの異常発生は危険信号であり、きれいな水のバランスのよい生態系に返さなければならない。